

## 世界は、自分の足元から変えていける

**Q. 留学することの意義について  
どのように考えますか？**

A. 世界というモノサシを持つことが彼らの将来にどう作用するのか、いまから本当に楽しみです。当社の歴史においても、「北国のための家づくり」を志向した先人達がまずトライしたのが「世界の家づくり」に学ぶことでした。例えば、冬こそ豊かに暮らそうとする欧州の国々の住文化は、雪と寒さを耐え忍ぶ暮らしが当たり前だった当時の日本人にはとても衝撃的だったと聞いています。それは同時に、自分達を変えていこうとしている事の大きさを物語っていたわけですが、世界水準というモノサシが、途方もな

いチャレンジの頼もしい道しるべになったことは間違いありません。同様に、今回の留学生がいつか自分の分野で「いま、ここから変えていく」とか、「いま、ここに旗を立てる」といったスタートラインに立ったとき、留学で身につけた思考や視点は、きっと独自の道を見つけていくのだろうと思います。

**Q. 「A Way We Learn」の賛同企業  
としての思いを聞かせてください。**

A. 世界を知り、世界を相手に活躍できる若者が次々と輩出されていく、そういう「地域」をまず誇りに思いますし、ずっと以前から留学を支援してこられた宮城明泉

株式会社 北洲  
代表取締役社長

村上 ひろみさん



学園にパートナーとして迎えられたことも嬉しく感じています。『三方善（売手よし・買手よし・世間よし）』とは昔から聞かれる商いの心得ですが、最近ではこれにもう一つ加えて『四方善』と説くこともあるそうです。「A Way We Learn」の賛同企業であれば、『未来よし』がそのもう一つにあたると思います。

若者の未来を通じて地域の未来に貢献できたわけですから。その彼らが社会人となり、いつか寄付者として「A Way We Learn」の輪に加わることだってあるかもしれません。そのときは、地域の子供を地域のみんなで育てる…そういう「未来」を、私達は地域に遺したことになるのでしょうか。